

名寄市が目指す将来像

地域の特性を生かして市民、事業者、行政でつくる 名寄市のゼロカーボンシティ

「地球温暖化問題」とは？

地球全体の気温が長期的に上がる傾向にあることを「地球温暖化」といいます。

また、気候の長期的な変動や変化を広く「気候変動」と呼びます。

人の活動により、地球温暖化が気候変動を起こすことで、災害の発生など、私たちの生活や自然環境へ影響を与えることが懸念されます。

(図1. 温室効果ガスの概念図 参照)

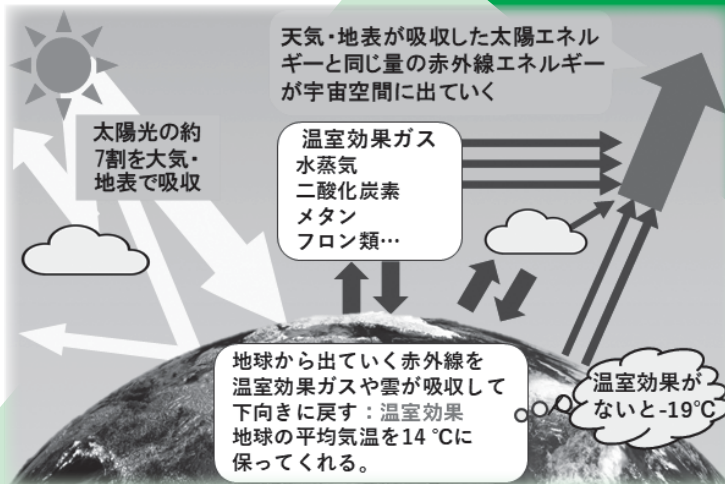


図1. 温室効果ガスの概念図

温室効果ガス排出量の現況

現況年度である **2020年度(令和2年度)** の市域から排出される **CO₂ 排出量は「349千t-CO₂」**です。

排出部門別にみると、産業部門が53%と最も多く、次いで、家庭部門が約18%、運輸部門が約15%、業務その他部門が約14%となっています。

※2020(令和2年度)年度時点では、製造業(紙・パルプ)に王子マテリア(株)名寄工場が含まれます。

(図2. 2020年度の部門別CO₂排出量 参照)

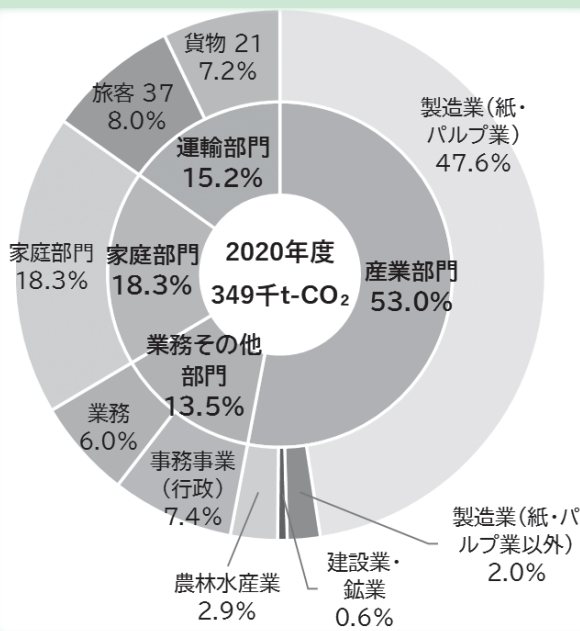
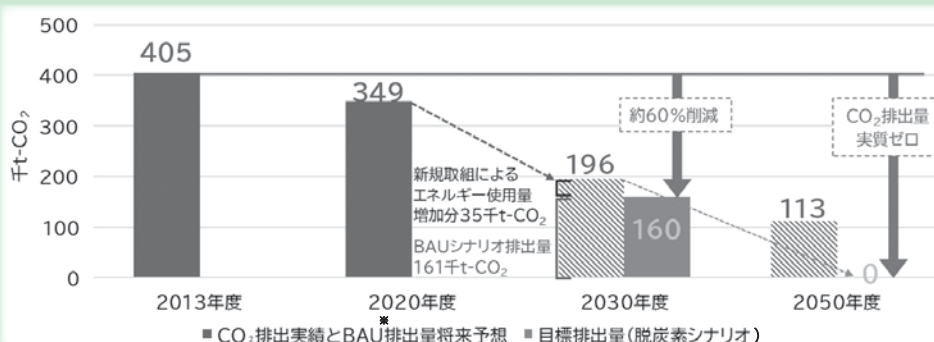


図2. 2020年度の部門別CO₂排出量

CO₂排出量の削減目標

本市では、ゼロカーボンシティを宣言しています。**最終目標は2050年(令和32年)の実質ゼロ**であるため、2030年度(令和12年度)は通過点です。再生可能エネルギーの導入などによる排出削減努力を継続的に実施するため、次のとおり削減目標値を設定しました。

(図3. 名寄市のCO₂削減目標と必要な削減量 参照)



※BAU…人口などの活動量の変化予測により、排出量を予測すること

図3. 名寄市のCO₂削減目標と必要な削減量

〈CO₂ 排出量削減目標〉

2030年度までに
約60%削減
(目標排出量160千t-CO₂)

2050年度までに
実質0に

削減目標達成のための緩和策・適応策

地球温暖化対策は大きく分けて2つに分類されます。

『緩和策』は、省エネなどにより温室効果ガスの排出を減らし、地球温暖化の進行を抑える、未来のリスクを減らす対策です。

一方『適応策』は、すでに起こりつつある気候変動の影響に備え被害を軽減する、今のリスクに備える対策です。

(図4. 緩和策と適応策 参照)



図4. 緩和策と適応策

地球温暖化対策を進めるには『緩和策』と『適応策』の両面に取り組んでいくことが大切！

緩和策の基本的な取り組み

基本方針1 省エネルギーの推進

施策1 環境に配慮した行動の推進

- ◇節電を心がける
- ◇ナチュラル・ビズの実施
- ◇徒歩や公共機関による移動

施策2 省エネルギー性能の向上

- ◇省エネ性能の高い設備・機器の導入
- ◇システム導入によるエネルギー使用量の見える化 など

基本方針2 再生可能エネルギーなどの促進

施策1 再生可能エネルギーの普及・活用

施策2 再生可能エネルギーの導入促進

- ◇太陽光発電設備や蓄電池の導入

施策3 再生可能エネルギーとしての有効活用

- ◇山林などで発生する不要材の有効活用 など

基本方針3 循環型社会形成の推進

施策1 3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進

- ◇排出される廃棄物の減量化
- ◇食品ロスの削減

施策2 再生可能エネルギーの導入促進

- ◇ごみ処理方式の変更によるごみの減量化および資源化率の向上 など

基本方針4 脱炭素型のまちづくりの推進

施策1 コンパクトなまちづくりの推進

- ◇まちなか居住の推進
- ◇空き家・空き店舗の有効活用

施策2 公共交通の充実と物流の効率化

- ◇物流の効率化
- ◇効率的で利便性の高い公共交通の形成

施策3 次世代自動車の普及促進

- ◇PHEV・EV自動車の導入
- ◇電気自動車の充電施設の設置 など

基本方針5 CO2吸収源の確保

施策1 CO2吸収源の整備

- ◇適切な森林整備の促進
- ◇環境負荷軽減に配慮した農業の推進 など

基本方針6 環境教育・連携体制の推進

施策1 人材育成の推進

- ◇小中学校における環境教育の実施

施策2 情報発信の充実

- ◇地球温暖化対策に関する出前講座やイベントの開催

施策3 連携体制との充実

- ◇「Yoroca」と連携した推進事業の実施検討
- ◇「夏の省エネ総点検（8月1日）」に合わせた集中的な省エネ対策の取組実施 など

※施策の詳細他、その他項目の詳細は市ホームページで公開しています。
ぜひご確認ください。▶



問い合わせ 総合政策課総合政策係（名寄庁舎3階） ☎01654③2111（内線3313）